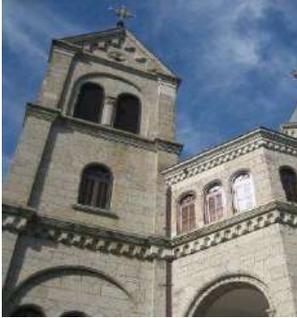
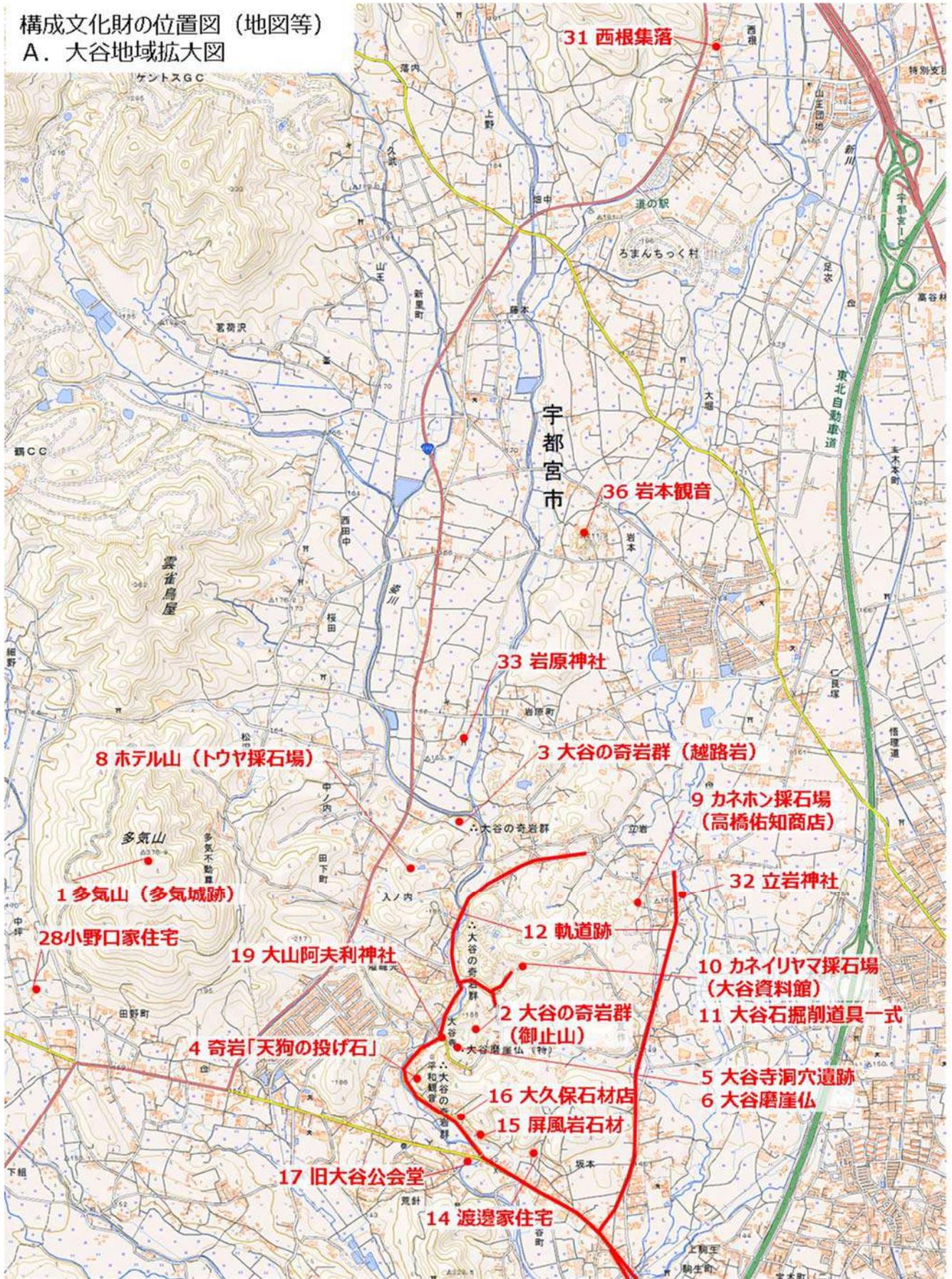


① 申請者	宇都宮市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
地下迷宮の秘密を探る旅 ～大谷石文化が息づくまち宇都宮～			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>冷気が張りつめるこの空間は一体、どこまで続き、降りていくのだろうか。壁がせり立つ巨大な空間には、柱が整然と並び、灯された明かりと柱の影が幾重にも続く。柱と柱の間を曲がると、同じ光景がまた目前に広がり、しだいに方向感覚が失われていく。</p> <p>江戸時代に始まった大谷石採掘は、最盛期に年間 89 万トンを出荷する日本屈指の採石産業として発展し、地下に巨大な迷宮を産み出していった。</p> <p>大谷石の産地・宇都宮では、石を「ほる」文化、掘り出された石を変幻自在に使いこなす文化が連綿と受け継がれ、この地を訪れる人々を魅了する。</p>			
			
カネイリヤマ採石場跡地		大谷観音（大谷磨崖仏）	
			
大谷石を彫る職人	カトリック松が峰教会	旧篠原家住宅	

構成文化財の位置図 (地図等)
A. 大谷地域拡大図



※ 12 軌道跡・・・主な路線を表記 18 山の神祭・・・大谷石の採石場毎に山の神祭が行われている。
35 無事カエル・・・市内の物産展等で販売。



構成文化財の位置図 (地図等)
C. 芦沼集落・上田集落周辺拡大図



ストーリー

JR宇都宮駅から北西におよそ9 km, 市街地を抜け、多気山^{たげさん}と丘陵地が大きく見え始めると景色は一変し、鋭く切り立つ岩山と灰白色の岩肌に蔦^{つた}が絡まる奇岩群^{きがんぐん}に囲まれる。ここは「大谷石」の産地、宇都宮市大谷地域。約1500万年前に起こった海底火山の噴火が、石の文化の源となる膨大な凝灰岩の地層を産み出した。



大谷の奇岩(御止山)



大谷観音(大谷磨崖仏)

この大量の凝灰岩の岩山に目を付けた人々は、この地でこの石と共に暮らしてきた。

古くは、縄文時代に岩山の洞穴を住居として利用し、古墳時代には横穴を掘って墓地とした。奈良・平安時代には、日本最古の磨崖仏^{まがいぶつ}とされる大谷観音を、自然の岩窟^{がんくつ}の壁面に彫りだし、信仰の場をつくりだした。大量の石に恵まれた宇都宮の人々は、長い時の流れの中で、この石に祈りや願いを「彫り」、そして石材として「掘って」きたのだ。

■石工が掘りだした巨大地下迷宮

石を「掘る」文化の証が、かつて大谷に約250ヶ所あったという採掘場とその跡地である。大谷の採掘場の多くは地下にあり、地表下100mに設けられた採掘場もある。坑道の先に天井と壁・柱で構成された巨大な空間が現れる。その天井高はおよそ30m、全てがひとつの石の塊で、壁面に採掘の痕跡が残る。

昭和30年代に機械が導入されるまで、採掘は手作業で行われ、わずか18×30×90cmの石材1本を切り出すために、石工は約4,000回も鶴嘴^{つるはし}を振ったという。この広さに到達するまでには気が遠くなる人の手がかかっているのだ。

冷気が張り詰める坑内には、天井を支えるために残した柱が立ち並び、行く先々を照らす明かりが重層的な影を生み、神秘的な情景を醸し出す。巨大な柱の先を曲がると、再び柱が立ち並ぶ光景が目前に広がり、次第に方向感覚が失われていく。ここは、採掘産業を支えた石工たちが、手作業で掘りだした巨大な地下迷宮なのである。

■大谷石産業の歴史

大谷石が本格的に建材として採掘されるのは江戸時代頃からである。当初は農閑期に露出する石を採掘していたが、明治以降は採掘産業として本格化し、人車軌道や鉄道等の輸送手段の発達や採掘の機械化により出荷量は飛躍的に増加した。大谷石は宇都宮のみならず東京や横浜に大量に出荷され、近代化する日本の都市づくりの礎となった。

かつての軌道沿いに造られた街道には、いまでも石材店が連なり、石工たちも集まった大谷石造りの旧公会堂もその一角にたたずむ。問屋は石山ごとに「山の神」を祀り、石山の安全や産業と地域の繁栄を祈願する。



公開されるカネイリヤマ採石場跡地



採掘の様子(1950年代後半～1960年代)



山の神大祭(大山阿夫利神社)

■掘り出した石で築いた都市文化

城下町・門前町として発展した宇都宮の市街地では、江戸時代以降、都市づくりに大谷石を使い続けてきた。都市のシンボルである^{ふたあらかやま}二荒山神社の石垣をはじめ、教会や寺、公共建築、豪商の屋敷、民家の塀まで、用途・身分・宗教を問わず大谷石が使われた。

大谷石で外壁を覆うカトリック松が峰教会聖堂では、浮彫を施した大谷石タイルを複雑に組み合わせ、象徴的な丸いアーチや西洋中世の教会建築の意匠を実現した。対照的に、日本聖公会宇都宮聖ヨハネ教会聖堂では、同じ大谷石タイル張りでありながら、石の自然な表情を活かした素朴なたたずまいの敬虔な信仰空間をつくりだした。また、耐火性に優れ調湿・消臭効果を備える大谷石は、食品醸造に適し、味噌や酒、醤油などの商家の蔵に用いられた。江戸時代から続く老舗では、いまでも石蔵で宇都宮の味をつくりだしている。



宇都宮聖ヨハネ教会聖堂



宇都宮大学庭園(中央園路に大谷石が使われる)

建造物以外にも、人々の憩いの場となる庭園の花壇や園路、道路の敷石にも用いられた。やわらかな大谷石は様々な表現・活用を可能とし、多様なデザインを欲した都市づくりに重宝されたのである。

■農村の暮らしに溶け込む大谷石

農村部には、田園と大谷石が一体となった素朴な景観が広がっている。30棟以上の石蔵が集まる集落では、掘り跡が生々しい石壁や屋根瓦の代わりに大谷石をのせた石屋根も目に入る。かつて石工だっ



大谷石建造物の街並み(芦沼集落)



大谷石造の祠(岩原神社)

た家では、蔵の窓周りに梅や松の彫刻細工を施し、思い思いに自分の蔵を飾り立て、玄関先では石造りのカエルが「無事カエル」主人を出迎える。大谷石は、一般的に神社の鳥居、野仏、供養塔、祠などに使われるが、宇都宮の農村部では、田んぼの土留、農業用ポンプ小屋、消防器具庫にも大谷石が使われる。田園風景の中を散策するたび、自由自在に姿を変えた大谷石との出会いがある。

■凹が拡がり、凸が生み出される宇都宮

宇都宮では、大谷石を彫って掘ってほり続け、地産地消の資源として変幻自在に使いこなす文化を育んできた。石との付き合い方は時代とともに変化を続ける。地下採掘場跡地は、採掘場内探検の舞台となり、市内に9,000棟ある大谷石建造物は、カフェやギャラリー等への転用が進む。現在も地場産業として大谷石採掘は続き、地下迷宮は拡がり続ける。

地下の巨大な凹が大きくなればなるほど、石のまち宇都宮の魅力が凸出していく。これからも宇都宮の人々は、大谷石と共に暮らしていく。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	たげさん 多気山 (多気城跡)	未指定 (史跡)	山裾で大谷下部層の露頭が観察できるこの山は、大谷石の産地の西側に位置し、この地域を城山地区と呼ぶのは、宇都宮氏が一時この山を城として使用していたことに由来する。	
②	きがんぐん おとめやま 大谷の奇岩群(御止山)	国名勝	姿川沿いに連続して露出する大谷石の高い崖は、松や蕨などの植物の緑と岩肌の灰白色の織りなすコントラストが見る人を魅了する。	
③	大谷の奇岩群(越路岩)	国名勝	大谷の奇岩群の北端に位置する越路岩は、春先の水田に水をはった時期に、水面に「逆さ越路岩」を写し出し、幻想的な情景を楽しむことができる。	
④	奇岩「天狗の投げ石」	未指定 (名勝)	天狗が投げて乗せたという伝説が残っており、まるで本当に怪力を使って天狗が置いたように、絶妙なバランスで崖の上に乗る不思議な大谷石である。	
⑤	おおやじどうけつ 大谷寺洞穴遺跡	未指定 (史跡)	1965 (昭和 40) 年に大谷磨崖仏防災工事に伴い発掘調査が行われ、洞窟内より、縄文時代草創期の土器、石器や縄文時代の人骨が発見されている。	
⑥	おおやまがいぶつ 大谷磨崖仏	特別史跡・重要 文化財	千手観音菩薩立像・釈迦三尊像・薬師三尊像・阿弥陀三尊像の 10 躰が、岩壁面に彫られ、その表面に粘土を着せた、石心塑造の珍しいものである。	
⑦	ながおかひやくあな 長岡百穴古墳	県指定 (史跡)	長岡百穴古墳は、大谷層上層に相当する長岡層に掘り込まれた 52 基からなる古墳時代の横穴墓である。	
⑧	ホテル山 (トウヤ採石場)	未指定 (史跡)	F.L. ライト設計の旧帝国ホテルやカトリック松が峰教会に用いられた石材を切り出した採石場である。	
⑨	カネホン採石場 (高橋佑知 商店)	未指定 (史跡)	現在稼働中の大谷石の露天採石場で、採石場に隣接して石材加工所や石材屑の堆積場、山主の住居兼事務所があり、採掘業に一連の流れを見ることができる。	
⑩	カネイリヤマ採石場跡地 (大谷資料館)	未指定 (史跡)	大谷資料館の地下採掘場跡は、1919 (大正 8) 年から大谷石を掘り出してできた約 2 万㎡の巨大な地下空間で、現在は資料館として展示公開されている。Cool Japan Award2017 を受賞。	

⑪	大谷石掘削道具一式	未指定 (民俗)	大谷資料館には、大谷石掘削の際に使用されたツルハシやハンマーなどの道具が展示されている。
⑫	きどうおと 軌道跡	未指定 (史跡)	大谷石輸送のため、明治 29 年に宇都宮軌道会社が創設され、その後大正 4 年に軽便鉄道が敷設され貨物輸送が強化された。廃線後は、一部が歩道として整備され散歩することができる。
⑬	東武鉄道南宇都宮駅舎	未指定 (建造物)	大谷石を用いた駅舎で、2020 年の改修工事で 1932 年の開業当時の姿が再現された。外壁の石張りは、腰壁より下が横方向、上部が縦方向という珍しいものである。
⑭	渡邊家住宅	市認定 (建造物)	渡邊家の屋敷内には、主屋、大谷石造りの石蔵 2 棟、表門、納屋があり、かつて名主を務めた民家の屋敷構えを今に残す。西石蔵内に記される墨書から、1769 (明和 6) 年以前のもものと推測される。
⑮	びょうぶいわ 屏風岩石材	県指定 (建造物)	屏風岩石材の大谷石造りの石蔵は、西蔵が明治 41 年の竣工、東蔵が明治 45 年の上棟で、居住用の西蔵 (座敷蔵) は本格的な洋風意匠を採用した曲線や繊細な装飾を用い、倉庫 (穀蔵) として建設された東蔵は、硬く力強い表現が目立つ。
⑯	大久保石材店	未指定 (建造物)	自然の大谷石を削り貫いて、母屋の離れとして屋敷の入り口に造られた部屋。大谷地区内でも唯一のもの。
⑰	旧大谷公会堂	国登録文化財 (建造物)	大谷石造りの旧大谷公会堂は、大正末期から昭和初期にかけて旧城山村の公会堂として建築され、現在は市の倉庫となっている。正面の 4 本の付け柱が特徴的で、柱には幾何学的な文様が彫り込まれている。
⑱	山の神祭り	未指定 (民俗)	大谷石の採石場は「ヤマ」とよばれ、採石場毎に山の神が祀られている。今でも、作業安全などを祈願するための山ノ神祭りが 1 月と 10 月に執り行われる。
⑲	おおやまあふり 大山阿夫利神社	未指定 (建造物・民俗)	明治以降に地元石材採掘業者によって祀られた。主祭神は山の神として祀られる大山祇命で、大谷石採掘の際の安全を祈願して祀られた。例祭は年 1 回で、10 月に地元採掘業者により執り行われている。
⑳	二荒山神社の石垣	未指定 (建造物)	江戸時代に神社の石垣を組む際に大谷石が使用され、現在もその石垣を見ることができる。

㉑	カトリック松が峰教会	国登録文化財 (建造物)	設計者のマックス・ヒンデルは故郷のグロスマュンスター大寺院を思いながら、この教会の設計を行った。我が国では、数少ない双塔を持ち、大谷石外壁にロマネスク様式の装飾が施されている。
㉒	宇都宮聖ヨハネ教会聖堂	市指定 (建造物)	1933(昭和8)年に竣工された教会堂で、尖りアーチやバッドレスが用いられたゴシック様式の教会で、大谷石を外壁全体に用いている。
㉓	宇都宮大学庭園	国登録文化財 (名勝地)	宇都宮大学の前身である宇都宮高等農林学校の開校に併せて作庭されたもので、フランス式庭園に倣った庭園で、園路や花壇等に大谷石が使われている。
㉔	栃木県中央公園の旧商工会議所遺構	未指定 (建造物)	昭和3(1928)年に建てられた大谷石貼りの商工会議所は、ライトの影響も窺われる斬新な意匠で、昭和54(1979)年に解体され、一部が栃木県中央公園内に移築・復元されている。
㉕	星が丘の坂道	未指定 (名勝)	屋敷を囲む高い大谷石塀と大谷石が敷かれた坂道が約40mにわたり一体的に見ることができる。2020年の復原改修工事により、大谷石の全面張り替えが行われた。
㉖	旧篠原家住宅	国重要文化財・市指定 (建造物)	篠原家は、昭和戦前まで醤油醸造業・肥料商を営んでおり、宇都宮で有力な商家の一つで、主屋は1895(明治28)年に建てられ、このほかに大谷石造りの石蔵が3棟あり、そのうち、文庫蔵の1棟は1851(嘉永4)年の建築である。
㉗	上野本家住宅	市認定 (建造物)	上野本家は、菜種油を精油する商店として江戸時代後期に創業し、1833(天保4)年に日光街道沿いに移転した老舗である。現存する建物5棟の中に土蔵の外壁に大谷石を張り付けた「辰巳蔵」と大谷石積の「穀蔵」がある。
㉘	小野口家住宅	国登録文化財 (建造物)	小野口家は、江戸時代より名主を務めた旧家で「前の蔵」「裏の蔵」「旧酒蔵」「長屋門」「堆肥舎」「旧乾燥小屋」の大谷石造りの石蔵が6棟並び、典型的な豪農の屋敷構えを残している。
㉙	あしぬま 芦沼集落	未指定 (文化的景観)	芦沼集落は、18軒の集落で、道路の両脇に大谷造りの石蔵と石塀が一体化された独特な街並みを呈する。
㉚	うわだ 上田集落	未指定 (文化的景観)	上田集落は、40数軒の集落で、各戸2棟以上の大谷石造りの石蔵を有し、道路沿いの水路に沿って、大谷石塀が数百メートル続いている。

㊸	にしね 西根集落	未指定 (文化的景観)	西根集落は、現在、20 戸程度の民家が集まり、集落内を貫く道の両側には大谷石造りの民家が連なる。石造りは土蔵、納屋、石塀などのほか、主屋も石造りの家もある。
㊹	たていわ 立岩神社	未指定 (建造物・民俗)	元々は星宮神社と称され、1912(大正元)年に立岩神社に改称された。本殿の後ろに巨大な大谷石の露頭を見ることができる。
㊺	いわはら 岩原神社	未指定 (建造物・民俗)	本殿の後ろの巨大な大谷石の岩はご神体で「ダルマ岩」と呼ばれる奇岩である。鳥居や祠も大谷石で造られている。
㊻	きだつな きんつな 宇都宮貞綱・公綱の供養塔	未指定 (史跡)	正和 3 (1314) 年に宇都宮貞綱が開基した興禅寺の境内に、貞綱と息子の公綱の供養塔と伝えられる大谷石製の五輪塔がある。
㊼	無事カエル	未指定 (伝統工芸品)	大谷石を加工して作られたカエルを象った民芸品で、「無事にカエル」との意味が込められており、以前は大谷寺の門前で売られていた。
㊽	岩本観音	未指定 (史跡)	大谷層の岩肌に馬頭観音菩薩立像と地藏菩薩立像の 2 体の磨崖仏が彫り込まれている。江戸時代の作とされ、大谷寺とともに下野三十三観音札所となっている。
㊾	ダイニング蔵 おしゃらく	未指定 (建造物)	昭和 13 (1938) 年に公益質屋の蔵として建てられ、現在は、まちなか活性化事業によりレストランとして使用されている。
㊿	南宇都宮石蔵倉庫群	未指定 (建造物)	昭和 28 (1953) 年に米の貯蔵庫として建てられ、内部が木造の洋風小屋組みと手掘りの大谷石のコントラストが見事で、現在は「カフェ」や「コミュニティースペース」等として使用されている。

(※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例：国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形等)。なお、**未指定であっても文化財保護の体系に基づいた分類を記載**すること。

(※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧

①多気山



③大谷奇岩群 (越路岩)



②大谷奇岩群 (御止山)



④天狗の投げ石



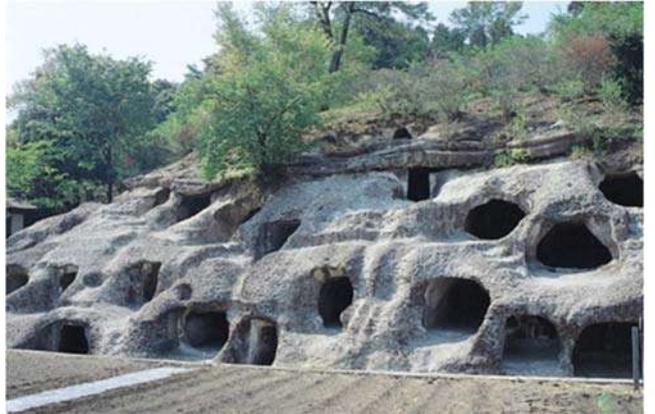
⑤大谷寺洞穴遺跡



⑥大谷磨崖仏



⑦長岡百穴古墳



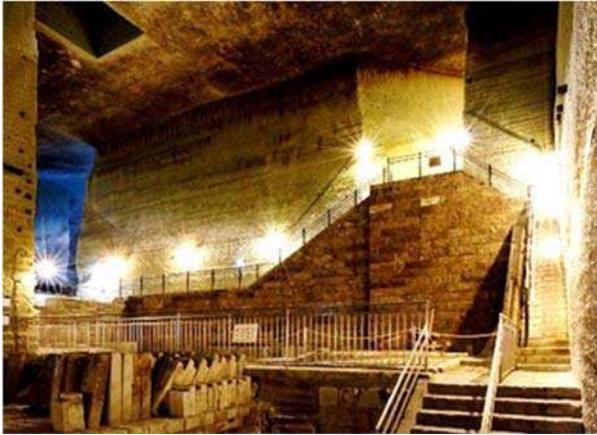
⑧ホテル山 (トウヤ採石場)



⑨カネホン採石場 (高橋佑知商店)



⑩カネイリヤマ採石場跡地



⑬東武鉄道南宇都宮駅舎



⑪大谷石掘削道具一式



⑭渡邊家住宅



⑫軌道跡



⑮屏風岩石材



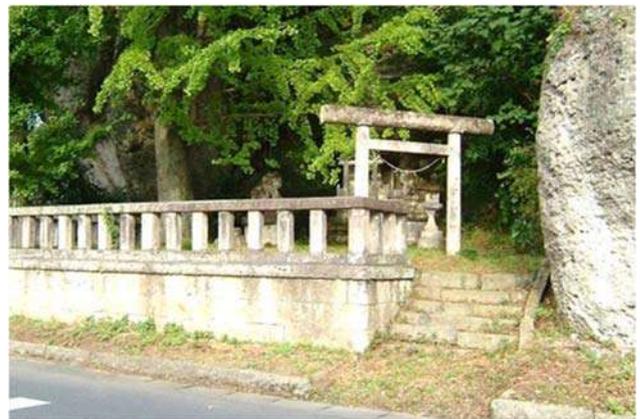
⑯大久保石材店



⑰旧大谷公会堂



⑲大山阿夫利神社



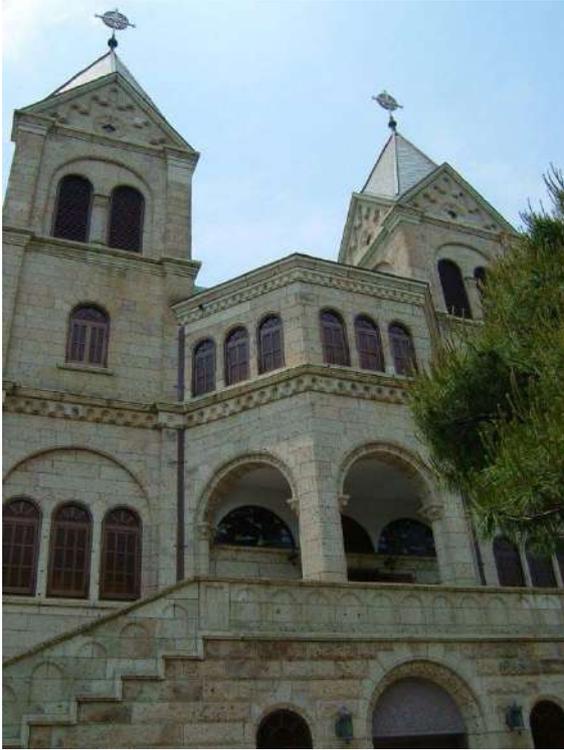
⑱山の神祭り



⑳二荒山神社の石垣



㉑カトリック松が峰教会



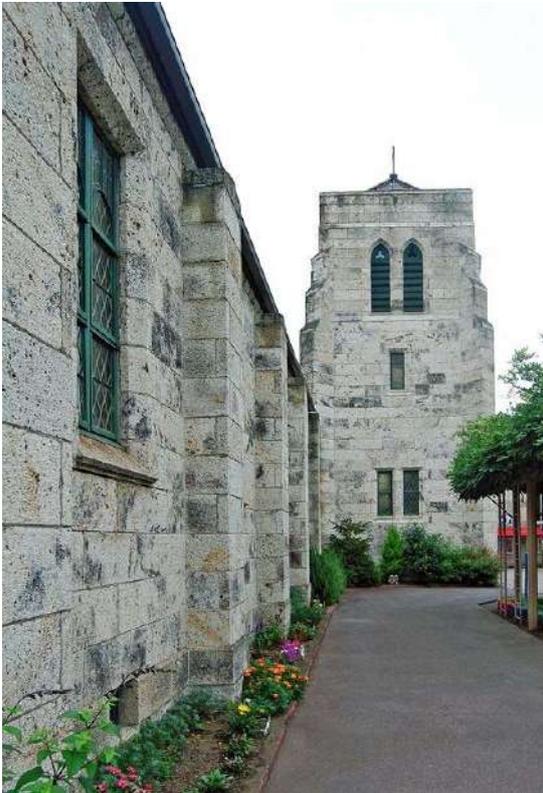
㉒宇都宮大学庭園



㉓栃木県中央公園の旧商工会議所遺構



㉔宇都宮聖ヨハネ教会聖堂



㉕星が丘の坂道



②⑥ 旧篠原家住宅



②⑨ 芦沼集落



②⑦ 上野本家住宅



③⑩ 上田集落



②⑧ 小野口家住宅



③⑪ 西根集落



⑳立岩神社



㉓無事カエル



㉔岩原神社



㉖岩本観音



㉗宇都宮貞綱・公綱の供養塔



㉙ダイニング蔵 おしゃれく



㉚南宇都宮石蔵倉庫群



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
57	地下迷宮の秘密を探る旅 ～大谷石文化が息づくまち宇都宮～

(1) 将来像 (ビジョン)

宇都宮市では「第6次宇都宮市総合計画（後期計画）（令和5年2月策定）」において、日本遺産「大谷石文化」などの本市の歴史文化資源を守り、市民が身近に触れられる機会の創出を行っていくことで、持続的な地域活性化を推進していくほか、本市固有の地域資源である大谷石を活用した更なる賑わいの創出・交流の拡大に努め、観光客の満足感を高めることができるよう、地域が一丸となった観光客の受入環境の充実に取り組むこととしている。また、「第3次宇都宮市観光振興プラン（令和5年2月策定）」においては、観光地・大谷の更なる魅力の創出を推進施策として掲げ、日本遺産「大谷石文化」を活用し、大谷の魅力発信・ブランド化等の観光振興を図ることとしている。

「大谷地域振興方針（平成30年3月策定）」では、大谷地域の最盛期の観光入込客数を超える年間120万人を目指して、石産業の中心である大谷地域の振興の考え方や、概ね10年後を見据えた取組について整理し、観光施設の立地基準の緩和や、地域資源の観光商品化の支援、採石場跡地に貯留している地下水の冷熱エネルギーを活用した「大谷夏いちご」の産地化などの取組をすすめてきたところである。

このような中長期的な計画に基づき、自然と産業の営みが生み出した本市の貴重な文化・観光資源を保存・活用していくことで、採石業や観光業、農業等の地域産業が活性化され、豊かで賑わい続けるまちとなり、更なる経済活動が活性化される好循環を生み出していく。

また、大学との連携講義や市民講座、小中学校での学習を通して、地域住民が本市独自の「大谷石文化」に愛着や誇りをもち、価値を再認識することで、文化財の保存や活用が促進され、シビックプライドの醸成や地域振興につながる取組みを創出していく。

さらに、大谷地域の景観が、重要文化的景観に選定されることを見据え、視点場の整備や重要な構成要素の修景を推進し、地域住民が一体となって、大谷の独特な景観を後世へ伝えていくことを目指していく。

令和5年11月には、日本遺産の構成文化財で、国登録有形文化財でもある旧大谷公会堂を移築・復原した「大谷観光周遊拠点施設（大谷コネクト）」を整備し、構成文化財や観光施設等の地域資源に関する展示や観光案内、イベント等への貸出を積極的にすすめている。訪れる人や地域住民が「大谷石文化」や地域の魅力を体感できる情報発信の拠点となり、多くの人の滞在・交流による賑わいを創出していく。

宇都宮市では、大谷石をほり、生み出した資源を使いこなして、まちや豊かな生活を築いてきた。大谷石がほられるほどに、まちは姿を変え、魅力が増していく。このような大谷石の文化を生み出すサイクルを末永く維持するとともに、生み出してきた資源に新たな視点を加えながら最大限活用することにより、「次に来るときは、どのように変化してい

るのか」が気になって、知らず知らずに宇都宮のファンになる、そんな期待感と変化に富んだ大谷石のまちを目指す。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－A：大谷観光周遊拠点施設（大谷コネクト）来訪者数（人）

年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	—	—	集計中	12,000	13,500	15,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	令和5年11月に開業した、「大谷石文化」に関する展示や、観光案内を行っている「大谷地域観光施設（大谷コネクト）」への来訪者数を指標とする。 毎月1,000人以上の来訪者数を目標とし、年間1,500人の増加を目標とする。					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－B：観光ガイド案内者数（人）

年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	14,329	24,424	25,939 ※R6.2末時点	27,000	28,000	29,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	大谷地域の主要な観光施設でのガイド案内者数を指標とし、年間1,000人の増加を目標とする。					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること

指標②－A：世論調査の日本遺産に関する回答（％）

年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	65.5	67.1	集計中	70	72	74

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	市内在住者を対象とした『日本遺産「大谷石文化」を誇りと感じる市民の割合』を指標とし、7割以上が日本遺産に誇りを持っていることを目標とする。
---------------------	---

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：大谷地域の入込客数（人）						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	463,400	571,353	751,038 ※R5.12末時点	800,000	850,000	900,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	大谷地域の来訪者数として、経済効果を把握する目安となる数値であるため指標とする。 コロナ後の回復途上にあることから、改めて大谷地域振興方針（2018年）で目標とする概ね10年後に120万人を目指す。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：大谷石文化サポーター数（人）						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	0	0	52	60	70	80
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	協議会の事業に賛同してくれ、大谷石文化を守り伝えていくためのサポーター数（個人・法人・団体）を指標とする。毎年10人程度の増加を目標としていく。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：宇都宮市の入込客数（人）						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	8,944,900	10,787,500	集計中	13,280,000	14,760,000	14,880,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	宇都宮市の観光入込客数を指標とし、コロナ禍以前の水準に段階的に回復することを目指す。 令和5年2月に策定した「第3次宇都宮市観光振興プラン」に基づき設定した。					

(3) 地域活性化のための取組の概要

1 成果と課題整理

これまでの取組では、宇都宮市大谷石文化推進協議会が中心となり、官民一体となって日本遺産「大谷石文化」を活かしたまちづくりを推進してきた。主に、①人材育成事業、②普及啓発事業、③環境整備事業の3本の事業を軸として、ガイド育成講座や、市民講座、看板整備事業などを通じて、市内外の多くの方々に大谷石文化の魅力を伝えることが出来た。また、令和5年11月に大谷周遊拠点施設（大谷コネクト）が開業し、構成文化財や観光施設等の地域資源に関する展示や観光案内、イベント等への貸出を積極的にすすめている。

課題としては、大谷地域の交通アクセスの改善や滞在時間の向上、案内板の多言語化対応など、今後増加する国内の観光客やインバウンドに対応する必要がある。

2 今後の取組の柱と期待される成果

(1) 魅力ある観光拠点づくり

○構成文化財等を周遊しやすい環境の整備を推進し、観光・拠点づくりに取り組む。

構成文化財の一つでもあり、国登録有形文化財にも指定されている「旧大谷公会堂」を活用した「大谷観光周遊拠点施設（大谷コネクト）」を中心に、日本遺産「大谷石文化」の魅力やストーリーを発信し、大谷観光の発着点として、来訪者が快適に周遊できる拠点づくりに取り組む。また、(仮称)大谷スマートICの整備などにより、アクセス性向上や、利便性を高めることに加え、繁忙期の交通渋滞緩和策として、パークアンドバスライド等の有効な手法を検討することで、安心安全に周遊できる観光拠点を形成する。さらに、インバウンドにも対応した案内板設置やパンフレット作成など、周遊環境整備を進める。

○大谷地域の特徴的な地域資源の新たな活用の推進を図る。

採石場跡地などの大谷石産業関連資源や奇岩に囲まれた独特の景観など、大谷地域の特異な地域資源を新たな視点で活かした体験事業や飲食業等を、民間事業者の参入を促しながら創造し、地域の魅力向上を図る。

○国内外の観光客へ日本遺産のストーリーを案内できる人材育成を行う。

日本遺産ガイド養成講座の継続した開催を行い、ガイドとしての話し方や、構成文化財の知識、コース設定について、座学・現地研修を通して学んでもらうカリキュラムを実施し、Oya Escorterとしての認定を行うことで、国内外への多くの方に日本遺産のストーリーや大谷石文化の魅力を伝えることができる人材を育成する。

(2) 大谷石文化の情報発信・周知啓発の推進

○大谷石文化を国内外に発信する。

ホームページやSNS等を通じて国内外への情報発信を行うことで、本市に根付く大谷石文化の魅力をより多くの世代の方々に知ってもらう。また、大谷地域だけでなく、宇都宮市全域の構成文化財についても、PR動画などを活用した周知啓発を行うことで、宇都宮市全体に根付いている大谷石文化の周知啓発に努める。

○市民を対象とした周知啓発事業を推進する。

日本遺産の認定により、大谷石文化の価値を再認識する市民も多いため、引き続き大谷石文化を知る市民講座を開催することなどにより、大谷石文化のより一層の価値の再認識を図り、宇都宮に根付く大谷石文化に対する誇りや愛着を醸成する。

(3)大谷石文化を形成する（ほって・つかう）サイクルの維持発展

○大谷石文化を生み出す大谷石産業の維持発展を図る。

大谷石文化を形成する原動力となる「大谷石産業」について、規模の縮小が課題となっているため、新たな需要の拡大や、異文化との交流機会の創出を行うなど大谷石の利用促進に取り組むほか、技術伝承やインターンシップの支援等により、大谷ならではの産業人材の維持・育成を図り、関係人口の増大に向けた取り組みを行い、持続可能な産業として継続することを目指す。

○大谷石を用いた景観形成・修景事業を推進し、宇都宮市独自の景観を形成する。

地域で掘り出された大谷石を建物の内外装に利活用する際の本市独自の補助制度により、大谷石の利活用を促進することで、大谷石に対する市民の愛着を醸成するとともに、来訪者が大谷石文化を視覚的に体感することができる宇都宮市独自の空間・景観づくりに取り組む。

○大谷石文化サポーター制度の拡大により、大谷石文化の保存・存続活動につなげる

日本遺産魅力発信事業に賛同し、活動を支援してくれる個人・団体・法人の募集を行い、共にPRに取り組むことで、大谷石文化を守り・伝え、活かす活動につなげる。

(4)戦略的な地域資源の保存・保全の推進

○大谷地域の景観資源の保存・保全を推進する。

大谷地域は、岩山の自然景観や文化的景観など、特徴的な景観を有する地域であり、重要文化的景観への選定を見据えた保存・保全を推進し、地域の魅力を末永く持続させていく。

(4) 実施体制

・ 協議会の名称

宇都宮市大谷石文化推進協議会

・ 構成団体

宇都宮市（文化課，観光交流課，大谷振興室，NCC 推進室），宇都宮商工会議所，城山地区コミュニティ協議会，大谷石材協同組合，（一社）宇都宮観光コンベンション協会，NPO法人宇都宮まちづくり推進機構，宇都宮伝統文化連絡協議会，宇都宮市文化財ボランティア協議会，（一社）うつのみやシティガイド協会，（公財）うつのみや文化創造財団，国立大学法人宇都宮大学，東日本旅客鉄道株式会社，東武鉄道株式会社

・ アドバイザー（オブザーバー）

大谷石文化の観光活用や地域振興への活用については、既に地元事業者や法人が先駆的な取組を行っており、全国的に注目される成果を挙げている事業もある。このことから、本計画の推進に当っては、以下の先駆的な事業者や法人をアドバイザーとし、助言

を得ながら事業を推進していく。

株式会社ファーマーズ・フォレスト， 有限会社ネイチャープラネット，
LLP（有限責任事業組合）チキカチ計画， NPO 法人大谷石研究会

〔人材育成・確保の方針〕

「大谷石文化」をガイドする技術及び知識を有するとともに，観光地域づくりの知識を有する「地域観光アドバイザー」を育成するため，ガイド初級講座，中級講座を令和元年度より毎年交互に実施しており，座学や現地での研修を行っている。

修了者は令和5年時点で82名であり，修了者の中には現地ガイドとして活躍している方も多く，今後も各団体と連携してガイド担い手育成に努めていく。

（5）日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

日本遺産の取組を行う「宇都宮市大谷石文化推進協議会」は当面の間、市の補助金などを活用して事業を推進していくが、自走化のための取組として、大谷石文化サポーター制度を立ち上げた。PRサポーター・協賛サポーターの2つのメニューを用意し、協賛サポーターについては年会費を設定し、運営資金の確保に努めていく。さらに、サポーターと連携し、商品開発など普及啓発のためのメニューの強化に努めていく。

（6）構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

- ・ 大学との連携講義や市民講座を通して，地域住民が本市独自の「大谷石文化」に愛着や誇りを持ち，シビックプライドが醸成されることで，地域振興や文化財の保存・活用に繋げていく。
- ・ 小中学生の「宇都宮学」の授業の一環で，採石産業の歴史をCGで再現した動画にアクセス出来るようにし，採石産業の歴史を学ぶことが出来る環境を整備しており，将来の宇都宮市の担い手になる若年層への構成文化財の理解と保存活動につなげていく。
- ・ 現在，大谷の文化的景観を国の重要文化的景観へ選定申出しているところであるが，選定されれば，重要文化的景観の補助制度を活用し，構成文化財の修理・修景や，視点場の整備などを行い，大谷の景観保全を推進していく。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	日本遺産を支える団体の組織運営		
概要	大谷石文化を普及啓発していくための組織運営を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産協議会の運営	日本遺産ブランドの総括を行い、地域活性化計画の進捗管理及び新規事業者の開拓や日本遺産の市外へのPRに取り組む。	宇都宮市大谷石文化推進協議会
②	大谷石文化サポーターの強化	大谷石文化を守り・伝え、活かす活動を中心とした当協議会の日本遺産魅力発信事業に賛同し、活動を支援してくれる個人・団体・法人の募集を行い、共にPRに取り組む。	宇都宮市大谷石文化推進協議会
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	大谷石文化サポーター数		—
2022			—
2023			52人
2024	大谷石文化サポーター数		60人
2025	大谷石文化サポーター数		70人
2026	大谷石文化サポーター数		80人
事業費	2024年度：10万円 2025年度：10万円 2026年度：10万円		
継続に向けた事業設計	協議会の自走化に向けた取組として、市内外の個人・法人・団体のサポーターを募る。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - A)

事業名	歴史資源保存活用のための計画策定		
概要	市にある歴史資源の保存活用の方針を示した計画を策定		
	取組名	取組内容	実施主体
①	大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観の重要文化的景観選定申出に向けた取組	大谷の奇岩群と採石産業によって生み出された景観を後世に伝えるため、国の重要文化的景観選定申出に向けた取組を実施する。	宇都宮市
②	宇都宮市文化財保存活用地域計画策定に向けた取組	地域の文化財の保存活用を計画的、継続的に取り組む必要があることから、本市の歴史文化資源の保存活用を一層推進するための計画を策定する。	宇都宮市
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	文化財保存活用地域計画策定に向けた懇談会の実施		—
2022			—
2023			—
2024	文化財保存活用地域計画策定に向けた懇談会の実施 重要文化的景観の選定		—
2025	重要文化的景観の周知、文化財保存活用地域計画策定		—
2026	重要文化的景観の周知		—
事業費	2024 年度：380 万円 2025 年度：10 万円 2026 年度：10 万円		
継続に向けた事業設計	宇都宮市の歴史資源の保護、および「大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観」の保存・活用を推進していく。		

(7) - 3 人材育成

(事業番号3-A)

事業名	歴史観光案内人材育成事業		
概要	観光ボランティアのスキルを高め、国内外の観光客へ日本遺産のストーリーを案内できる人材育成を進める。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産ガイド養成講座	ガイドとしての話し方講座や、構成文化財の知識、コース設定について、座学・現地研修を通して学んでもらうカリキュラムを実施し、Oya Escorter としての認定を行う。	・宇都宮市 大谷石文化 推進協議会 ・(一社)う つのみやし ティガイド 協会
②	文化財ボランティア養成講座	市内の歴史や文化財を解説・案内するための人材育成講座を行う。	・宇都宮市 ・宇都宮市 文化財ボラ ンティア協 議会
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	ガイド受講者数		26人
2022			19人
2023			15人
2024	ガイド受講者数		30人
2025	ガイド受講者数		30人
2026	ガイド受講者数		30人
事業費	2024年度：150万円 2025年度：150万円 2026年度：150万円		
継続に向けた事業設計	観光客増加に伴うガイドの需要増加に対応するため、ガイド人材養成を進めることで、担い手育成と人材活用の両立を目指す。		

(7) - 4 整備

(事業番号 4 - A)

事業名	周遊性向上のための整備事業		
概要	大谷地域の周遊性向上のための取組を実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ストーリーの全体像を伝える拠点づくり	大谷観光周遊拠点施設において、大谷石文化のストーリーの全体像を伝える展示や観光案内を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市 ・宇都宮市大谷石文化推進協議会 ・宇都宮市大谷観光周遊拠点施設運営共同事業体(指定管理者) ・(一社)うつのみやシティガイド協会
②	ストーリーを伝える多言語パンフレットの整備	パンフレットの多言語対応を行い、外国人観光客への理解促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市 ・宇都宮市大谷石文化推進協議会 ・(一社)うつのみやシティガイド協会
③	グリーンスローモビリティを活用した周遊促進策	グリーンスローモビリティの活用やお得なパスポートの販売を通じ、エリアの周遊性の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市 ・NPO 法人大谷商工観光協力会
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	大谷観光周遊拠点施設の来訪者数		—
2022			—

2023		集計中
2024	大谷観光周遊拠点施設の来訪者数	12,000
2025	大谷観光周遊拠点施設の来訪者数	13,500
2026	大谷観光周遊拠点施設の来訪者数	15,000
事業費	2024年度：2,578万円 2025年度：2,588万円 2026年度：2,598万円	
継続に向けた事業設計	大谷周辺地域の観光振興・周遊促進を図るため、大谷観光周遊拠点施設の管理運営を指定管理制度により行う。	

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	観光コンテンツ整備事業		
概要	日本遺産「大谷石文化」の普及啓発のため、魅力ある観光コンテンツや商品等の創出を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ガイドコンテンツの作成	民間団体と連携し、魅力あるガイドコンテンツのコンテンツの作成を行う。	・宇都宮市大谷石文化推進協議会 ・(一社)うつのみやシティガイド協会
②	関連商品の作成	民間団体や、大谷石文化サポーターと連携し、大谷石文化に関する商品開発を行う。	・宇都宮市大谷石文化推進協議会
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	大谷石文化サポーター等と連携した商品・サービス数		—
2022			—
2023			4商品
2024	新規商品・サービス数	1件	5商品
2025	新規商品・サービス数	1件	6商品
2026	新規商品・サービス数	1件	7商品
事業費	2024年度：10万円 2025年度：10万円 2026年度：10万円		
継続に向けた事業設計	民間団体と連携することで、魅力あるコンテンツの創出を図っていく。		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	学校と連携した普及啓発事業		
概要	小・中学校や地元大学と連携した大谷石文化の普及事業を実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	小・中学校での普及啓蒙	郷土愛の醸成を目的として、小・中学校で導入している「宇都宮学」において、大谷石文化を取り上げ、普及啓発を図る。	宇都宮市
②	国立大学法人宇都宮大学との連携講義及び市民講座	宇都宮大学との連携講座や市民講座を通して、大谷石文化の普及啓発を行う。	・宇都宮市 大谷石文化推進協議会 ・宇都宮大学
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021			108人
2022	市民講座受講者数	コロナにより延期	
2023		67人	
2024	市民講座受講者数	70人	
2025	市民講座受講者数	80人	
2026	市民講座受講者数	90人	
事業費	2024年度：10万円　2025年度：10万円　2026年度：10万円		
継続に向けた事業設計	大谷石文化の市民への普及活動を通じて、日本遺産認知度向上を図っていく。		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	情報発信事業		
概要	市のHP や SNS を活用してイベント情報や、大谷石文化の魅力を発信する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	公式ホームページやSNSによる情報発信	イベント情報や、大谷石文化の魅力を伝える投稿を通じ、宇都宮市に足を運んでもらう機会の創出を図る。	・宇都宮市 大谷石文化 推進協議会
②	PR 動画の作成・普及	日本遺産をPRする動画の作成や、SNS等での発信を通して、大谷石文化の紹介や、来訪者の増加を図る	・宇都宮市 ・宇都宮市 大谷石文化 推進協議会
③	日本遺産関連イベントでのPR活動	大谷石関連商品の販売や、リーフレットの配布を行うことで日本遺産「大谷石文化」のPRを行う。	・宇都宮市 ・宇都宮市 大谷石文化 推進協議会
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	ホームページ閲覧数 (PV 数)		71,589PV
2022			63,163PV
2023			集計中
2024	ホームページ閲覧数 (PV 数)		72,000PV
2025	ホームページ閲覧数 (PV 数)		72,500PV
2026	ホームページ閲覧数 (PV 数)		73,000PV
事業費	2024年度：260万円 2025年度：260万円 2026年度：260万円		
継続に向けた事業設計	大谷石文化に関するイベント情報や、魅力を伝える投稿を継続して行い、大谷地域を中心とした入込客数の増加を目指す。		